

スーパーティーチャーによる一人一台端末を活用した 授業公開研修



鳥栖市立弥生が丘小学校 久保 明広 教諭

小学校第6学年 体育科 走り高跳び

ICT活用のポイント

- ・ 学習カードとして一人一台端末を活用し、一つのスライドに毎時間の記録と動画、コメントを残していくことで、メタ認知を促すこと、自己の変容や学びを確認すること、保護者と活動を共有し評価をしてもらうことが可能となる。
- ・ ホワイトボード機能を活用し、より高く跳び越すための気づきをクラスで共有することで、より高く跳ぶための「手作りヒント集」とすることができる。

学習の流れ 5時間（本時4／5）

導入

①場を準備し、本時の活動を確認する。

（気づきについて確認し各自の課題を明確にする。）

活用ポイント
【ホワイトボード機能】

<めあて>
自分の記録を高めよう!

展開

②様々な高さで、何度も跳ぶ。<チャレンジタイム>

活用ポイント【カメラ機能】

<評価>より高く跳ぶために試行錯誤したり、より高く跳ぶことができたっている。

③高さを設定し、2、3回跳ぶ。<記録タイム>

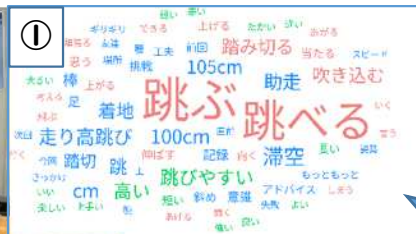
活用ポイント【カメラ機能】

まとめ

④振り返りをする。
・自分の動画を見て、気づきを吹き込む（書き込む）。

活用ポイント
【スライド機能】





①場を準備し、本時の活動を確認する。
(気づきについて確認し各自の課題を明確にする。)

前時の振り返りでどのような言葉がよく使われているのか確認することができます。
【テキストマイニング機能】

手作りポイント集で跳び方のコツを確認します。
【ホワイトボード機能】



②様々な高さで、何度も跳ぶ。
③高さを設定し2、3回跳ぶ
<チャレンジタイム、記録タイム>

試技をした後、自分で確認できるのでとっても便利です。

試技をしている友達の端末を使って、撮影します。

④振り返りをする。

走り高跳び 学習カード

日ごとのスライド

記録

記録表	高さ (cm)	
1回目	96	○
2回目	100	×
3回目	100	○

5時間目(7/11)

記録タイムの動画

振り回り (音声入力も可)

お家の人のコメント

前回より、少し膝下が伸びて来たと思います。毎日少しずつでも時間をとって続けていきましょう。助走のスピードを生かし、そのままの勢いで跳べているのは、とても良いと思います。

先生のお家のコメント

助走でつけたスピードを生かして、上に力がいくように意識しながら跳ぶことができた。足がまがってギリギリだったから中学校やるときは伸ばしてやると高く跳べると思った。分かってできたから良かったと思う。

令和4年7月7日に行われたスーパーティーチャー久保明広教諭（鳥栖市立弥生が丘小学校）の実践です。「より高く跳び越すためには!？」という単元を貫く問いに向かって試行錯誤しながら活動している子供たちの姿が見られました。跳ぶ姿を友達に撮影してもらうことで自分の動きを視覚的に確認することができ、ポイントに気付くことができます。久保先生の授業では動画をデジタルの学習カードに入れることで毎時間の変容を確認できる工夫がされていました。さらに持ち帰ってお家の人に見せコメントをもらうことで、子供たちの能動性を引き出すとともに、家庭との連携も図れます。今まで見る事ができなかった学校での姿を見せることはお家の方にとってもありがたいことです。1人1台端末の長所が十分に活かされた授業でした。